

令和 6 年度の年金広報・年金教育の取組について

厚生労働省 年金局

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

1. 年金広報、年金教育の取組について

年金広報、年金教育の取組

小学生以下

中高生

大学生

社会人

生涯を通じた年金教育

■ 若年者向け参加型教育

こども霞ヶ関
見学デー

中高生向け
年金対話集会

大学生向け
年金対話集会



※ 日本年金機構では高校生や大学生向けの年金セミナーなどを開催

■ 教育資材の開発と活用

学研まんが
年金のひみつ

中高生向け教育資材

令和6年5月
新たな教育
資材を公開



令和6年3月末
第4弾の
動画を公開

YouTube動画を活用した年金教育(QuizKnockとのコラボ動画)

年金の見える化



公的年金シミュレーター(令和6年6月末時点のアクセス数約770万回)

ねんきんネット(令和6年3月末の登録数約1,098万件)

※ 私的年金についても各実施主体などによる見える化の取組を実施

制度見直しなどに 関する広報



令和6年4月
適用拡大特設サイトを更新
(手引き、チラシ、動画)

被用者保険の適用拡大の周知広報



令和6年6月
年金財政に関する
動画・広報資料を公開

財政検証に向けた年金財政に関する広報

※ 令和6年12月のDC拠出限度額見直しに向けた広報を実施

中高生向け年金教育教材の特徴（年金教育動画の利活用）

厚生労働省が QuizKnock と

年金の授業を制作しました！

過去4回制作されたコラボ動画から、必要な箇所をピックアップ。再編集された動画を見ながら楽しく学べる教材です。

楽しみながら年金に
くわしくなろう！



都内の高校で授業を実施

QuizKnockメンバーが実際に授業を行いました。生徒からは年金制度の知識が深まったとの声が多数寄せられました。



年金広報の活動が特別優秀賞を受賞！

厚生労働省の年金広報企画室がISSA Good Practice Award competitionで特別優秀賞を受賞しました。QuizKnockによる広報動画を含む様々な広報活動が評価され、日本初の入賞となりました。

今までの コラボ動画

第1弾

年金について日本一わかりやすく説明しようとしたら
こうなった



QuizKnockが年金制度について
全力でガチのクイズ番組を作っ
ました！

<https://www.youtube.com/watch?v=KrKP805Jsvk>



第2弾

東大生が年金について考えてみた【QuizKnock塾】



QuizKnockによる年金クイズ番組第2弾！
将来のお金のことを、年金ガチ勢と一緒に考えてみましょう。

<https://www.youtube.com/watch?v=8B6LqFUxssQ>



第3弾

【助けてQuizKnock】悪魔スガイが乱入してきて
年金講座が進まない



ふくらPの年金講座に突如悪魔が乱入！？果たしてメンバーは最後まで講座を受講できるのか！

<https://www.youtube.com/watch?v=x-EaPF867Q0>



第4弾

クイズ王ならたまたま近くに座ってる人の会話から
人生読み取れる説



QuizKnockなら隣に座ってる人の会話で職業当てられるよね？
ついでに将来の年金も……？

<https://www.youtube.com/watch?v=dRAAtyKwUil>



被用者保険適用拡大の広報（好事例を踏まえた新たな広報コンテンツ）

令和5年度に実施した企業へのヒアリングの結果などを踏まえ、複数の企業で共通して実施している取組などを参考にした新たな広報コンテンツを作成し、令和6年4月にリニューアルした「適用拡大特設サイト」に掲載、関係団体などと協力した周知も実施

人事労務管理者向け手引き

人事・労務管理者向け
社会保険適用拡大の
こんなとき! どうする?
手引き

こんなとき! どうする?

- 適用拡大により社会保険に加入することになる事業所や従業員を知りたい **P.2**
- 従業員数を計算するにあたってポイントが知りたい **P.4**
- 経営者への説明にあたってポイントが知りたい **P.5**
- 現場責任者への説明にあたってポイントが知りたい **P.8**
- 従業員への説明内容のポイントが知りたい **P.10**
- 従業員への説明方法のポイントが知りたい **P.14**

3 チラシ・パンフレット一覧

どんな場面でどのツール(チラシ、パンフレット、動画)が効果的かを知りたい

従業員向けチラシ

社会保険
加入のメリット!

対象者 1分で分かる! 動画はこちら

社会保険(健康保険、厚生年金保険)に加入した場合、保険料の支払いが長くなるものの、退職年金の保障が得られることから、従業員の福利が拡大されています。以下のような条件を満たすことで、適用拡大の対象となります。

- ① 通の勤務時間が20時間以上
- ② 給与が月額88,000円以上
- ③ 2か月を超えて働く予定がある
- ④ 学生ではない

⑤ 医療メリット 1分で分かる! 動画はこちら

① 傷病手当金 傷病期間中に給与の2/3が支払われます。

② 出産手当金 出産前後の休業期間中に給与の2/3が支払われます。

③ 年金メリット 厚生年金保険に加入すると、年金額が増えます。

加入前(国民年金のみ) → 加入後(国民年金+厚生年金保険)

年金額の増額例 1分で分かる! 動画はこちら

厚生年金保険に加入することで、(国民年金)に加えて「厚生年金」が受け取れます。

厚生年金加入による収入増を試算してみよう

※年取り増しのシミュレーション 社会保険加入による収入増をシミュレーションすることができます。

※年金の増え方のシミュレーション 社会保険加入による収入増をシミュレーションすることができます。

手取りかんたんシミュレーター

公開報告シミュレーター

従業員向けショート動画

社会保険の加入対象ってどんな人?

短時間労働者の社会保険の加入条件をご説明します。

社会保険 労働士さん

Aさん 35歳 パート勤務

社会保険の加入対象ってどんな人?

- 1 通の勤務時間が20時間以上
- 2 給与が月額88,000円以上
- 3 2か月を超える雇用の見込み
- 4 学生ではない

次の4つの条件のすべてに当てはまる場合は対象となります。

年金財政に関するインフォグラフィックを活用した広報（動画①）

学生を含めた幅広い世代の方に年金財政に対する理解が進むよう、年金財政の枠組みやマクロ経済スライドが視覚的に理解できるようインフォグラフィックスを活用した分かりやすい1分間のショート動画やパワーポイント資料を用いた広報を進める。

<公的年金制度の財政の枠組みの説明用動画>



公的年金制度の財政の枠組み

平成16年に**年金財政の枠組み**が導入されました。

年金財政の枠組みで、極端な偏りを回避

収入 支出

現役世代 高齢世代

公的年金制度の財政の枠組み

「保険料」、「国庫負担」、「積立金」の3つです。

公的年金財政の「収入」と「支出」

収入 支出

- ① 保険料率は上限固定（厚生年金の場合 18.3%（労使折半））
- ② 基礎年金国庫負担 2 分の 1
- ③ 積立金の活用

公的年金制度の財政の枠組み

このように世代間で負担を分かち合うことにより

公的年金財政の「収入」と「支出」

現役世代の負担は増えない！

収入 支出

- ① 保険料率は上限固定（厚生年金の場合 18.3%（労使折半））
- ② 基礎年金国庫負担 2 分の 1
- ③ 積立金の活用
- ④ 財源の範囲内で給付水準を自動調整する仕組み（マクロ経済スライド）の導入

公的年金制度の財政の枠組み

この仕組みを「マクロ経済スライド」といいます。

公的年金財政の「収入」と「支出」

現役世代の負担は増えない！

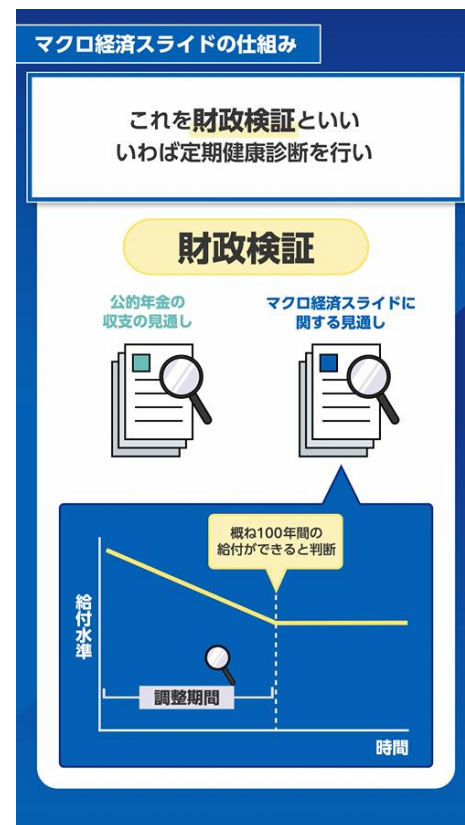
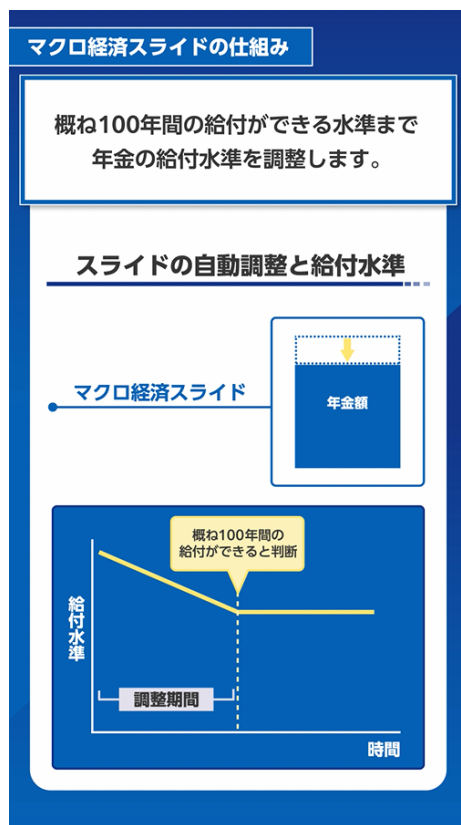
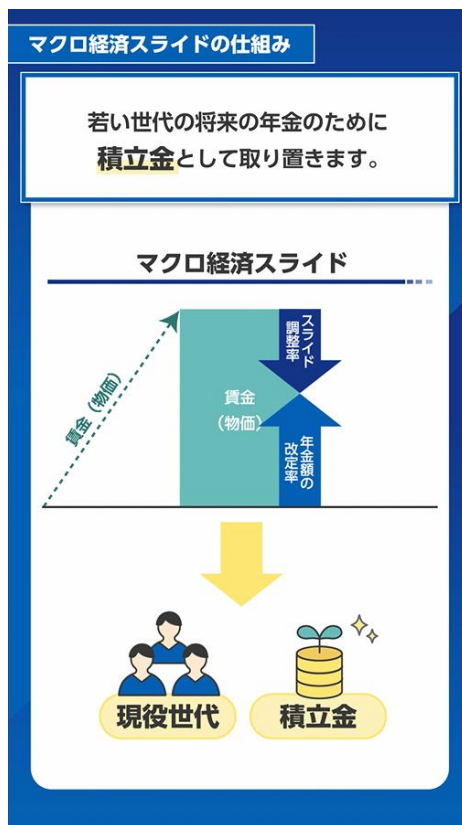
収入 支出

- ① 保険料率は上限固定（厚生年金の場合 18.3%（労使折半））
- ② 基礎年金国庫負担 2 分の 1
- ③ 積立金の活用
- ④ 財源の範囲内で給付水準を自動調整する仕組み（マクロ経済スライド）の導入

年金財政に関するインフォグラフィックを活用した広報（動画②）

学生を含めた幅広い世代の方に年金財政に対する理解が進むよう、年金財政の枠組みやマクロ経済スライドが視覚的に理解できるようインフォグラフィックスを活用した分かりやすい1分間のショート動画やパワーポイント資料を用いた広報を進める。

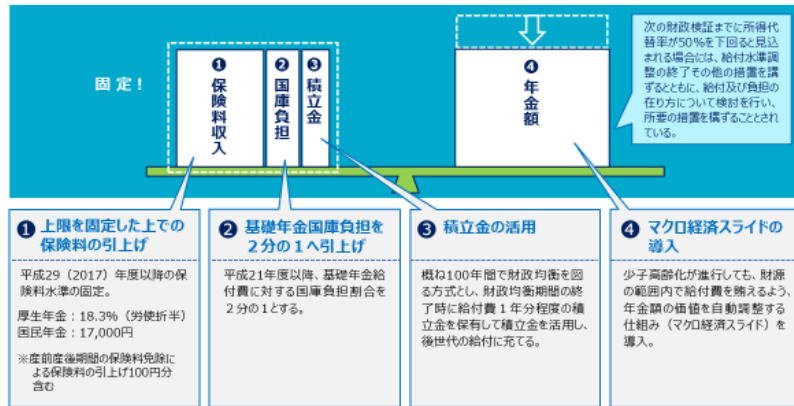
<マクロ経済スライドの説明用動画>



年金財政に関するインフォグラフィックを活用した広報資料①

公的年金制度の財政の枠組み

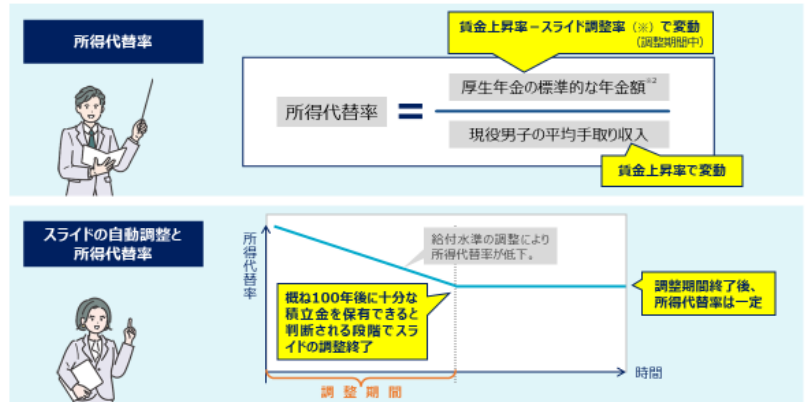
- 2004（平成16）年の年金制度改革で、今後、急速に進行する少子高齢化を見据えて、**将来にわたって、制度を持続的に安心できるものとするための年金財政のフレームワークを導入**しました。
- **保険料の引上げが終了し、基礎年金の国庫負担が2分の1に引上げられたため、収入面の財政フレームは完成。**



※標準的な厚生年金の所得代替率：61.7%（令和元年度）⇒50.8%～51.9%（令和28～29年度）
＜令和元年度財政検証「ケース1」より＞

マクロ経済スライドの仕組み

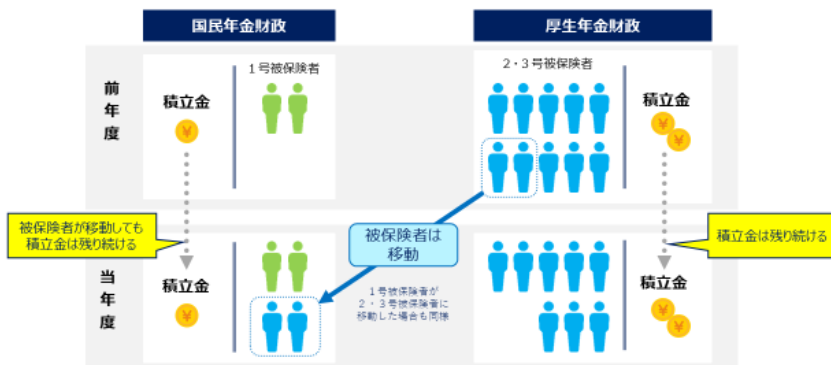
スライドの自動調整を行う調整期間中は現役男子の平均手取り収入に対する厚生年金の標準的な年金額の割合（所得代替率）は低下しますが、調整期間の終了後は、原則、一定となります。



（※）スライド調整率＝公的年金全体の総保険料の減少率（最近3か年度の累積値の平均値）÷平均余命の伸び率（一定率）（0.3%）
（※2）厚生年金の標準的な年金額＝夫婦2人の基礎年金満額＋夫の報酬比例部分

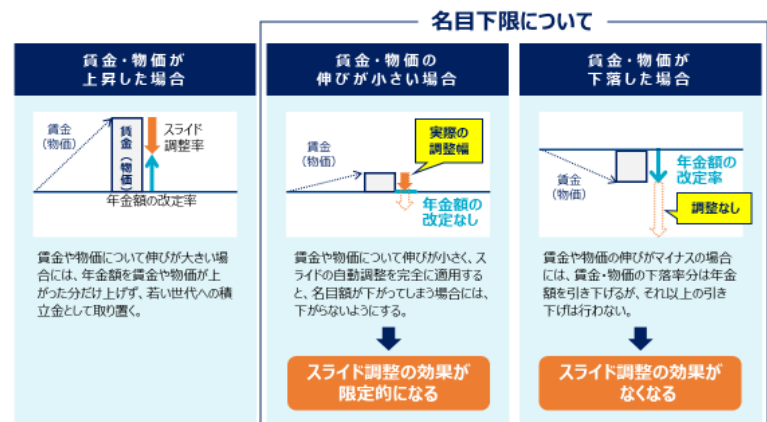
参考 積立金の性質

- 賦課方式の年金制度における積立金は、保険料給付で余った残金が積み立てられたもの
- 個人の持ち分という考えはなく、被保険者が制度間を移動しても積立金は残っている
- 年金給付が大きくなった現在、保険料の残余はなく、現在の積立金は、過去の被保険者の保険料の残余が積み立てられ、運用により増大してきたものであり、厚生年金、国民年金の積立金は今の被保険者が積み立てたものではない



マクロ経済スライドの仕組み

年金額を改定する際には、**マクロ経済スライドにより、年金額の伸びがマイナスにならないようにするルール**があります。これを、**名目下限措置**といいます。

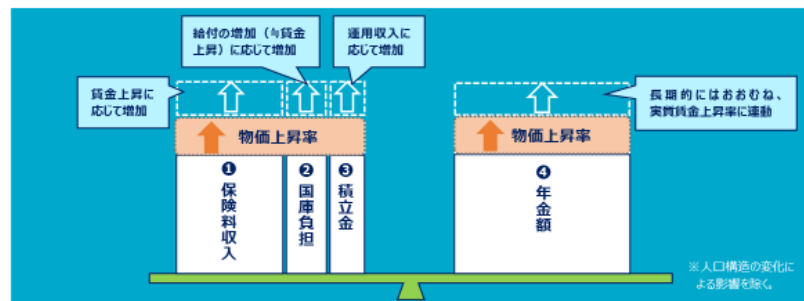


年金財政に関するインフォグラフィックを活用した広報資料②

経済変動が年金財政へ与える影響

年金財政にとって、実質賃金上昇率、実質的な運用利回りが重要です。

物価変動は収入、支出を等しく変化させるものであり、基本的に年金財政に中立です。



しかし、現行制度のマクロ経済スライドには名目下限があるため、物価上昇率が低い場合、物価上昇率で改定する既裁定者の年金についてはマクロ経済スライドによる調整が十分に行われず、年金財政にマイナスの影響を及ぼします。



調整期間一致に伴う給付水準の変化

2004年財政再計算基準ケース

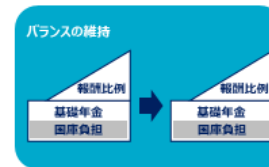
所得代替率	59.3%	50.2%
報酬比例部分（2倍）	25.7%	21.8%
基礎年金（2人分）（1倍）	33.7%	28.4%

マクロ経済スライド調整期間（19年間）

基礎・比例の調整期間を一致させた場合

所得代替率	61.7%	55.6%
報酬比例部分（2倍）	25.3%	22.6%
基礎年金（2人分）（1倍）	36.4%	32.9%

基礎・比例の調整期間一致
(14年間)
2019 → 2033



仮に調整期間を一致させた場合では、現行制度の下での見直しに比べて国庫負担が増加することとなる（このため国庫負担については追加財源の確保が必要）

基礎年金水準の低下の影響

国民年金（1号被保険者）の財政状況が、厚生年金の所得再分配の大きさや国庫負担の大きさを決めています。

国民年金（第1号被保険者）の財政悪化

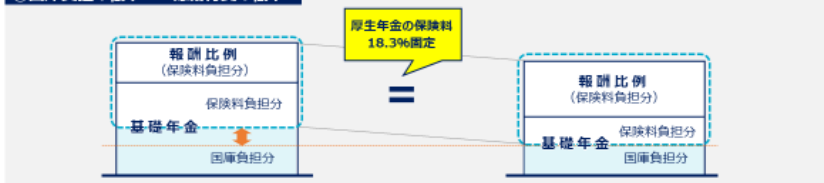
厚生年金受給者を含む全国民共通の基礎年金水準の低下

厚生年金における所得再分配機能と国庫負担が低下

① 所得再分配機能の低下



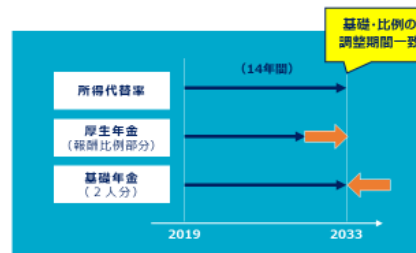
② 国庫負担の低下 → 総給付費の低下



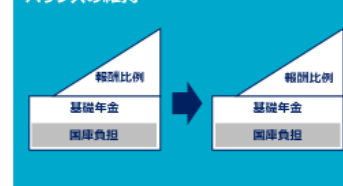
基礎年金と報酬比例のマクロ経済スライド調整期間の一致による効果

基礎年金と報酬比例の調整期間を一致させ、基礎年金水準を維持することで、次の効果があります。

- 基礎年金水準の低下の防止で、厚生年金の所得再分配機能の低下を防ぎ、低所得層の年金水準の低下を防ぎます。
- 基礎年金水準の低下に伴う国庫負担の低下の防止で、給付原資の全体の縮小を防ぎ、ほぼ全ての層で年金水準の低下を防ぎます。



バランスの維持



2. 年金対話集会における意見聴取について

1. 大学生向け年金対話集会の機能強化

⇒令和元年度から取組を行っている年金対話集会を活用した意見交換を継続実施。

さらに、令和6年度は年金制度改正と関連した意見聴取を行う。

- 学生の問題意識や関心がある論点を事前に把握してテーマを設定（拡充）
- 年金制度改正と関連したテーマや内容を含む講義資料を追加し、学生との意見交換を実施（拡充）
- 年金制度に対する提案や要望などを募集するアンケート項目を追加（新規）

※大学側と事前調整の上、年金部会委員や企業年金・個人年金部会委員の年金対話集会への参加も検討する。

2. 新たな年金教育教材を活用した中高生向け年金対話集会の実施

⇒より幅広い年齢層から意見を聴くため、中高生向けの年金対話集会を実施。

- 中高生が興味を持ち、楽しく学ぶことができる新たな年金教育教材を活用（新規）
- 講義の後に意見交換を実施し、中高生の年金制度に対する意見を聴取（新規）

年金対話集会の概要

■ 趣旨・概要

- ・ 学生と厚生労働省(年金局)職員が年金をテーマに語り合うことを通じて、学生が年金について考えるきっかけにするとともに、学生からの意見や指摘を今後の年金行政に活かす。
- ・ 学校のご協力の下、授業の時間をお借りし、学生の理解度やニーズに合わせて学校ごとにテーマを調整し実施。

■ 進行・テーマ選定

第1部 導入講義

■ 年金制度改正と関連したテーマで講義を実施

年金制度の仕組みや意義、年金財政などに加えて、学生の問題意識や関心がある論点を事前に把握した上で、年金制度改正と関連したテーマや内容を含む資料を用いて年金局の職員が講義を行った。

■ 講義で扱ったテーマ

各大学で、適用拡大、第3号被保険者、遺族年金、私的年金、基礎年金拠出期間45年化等の中から1～2のテーマを選択
(高校では中高生向けの新たな教育資材を使用)

<導入講義の様子>



第2部 意見交換

■ 年金局職員と学生との対話による意見交換・相互理解の促進

扱ったテーマに関する意見交換や質疑応答を行うとともに、年金制度に対する素朴な疑問や将来に対する不安についても、年金局において年金制度を実際に企画立案、事業運営を担う職員の視点から回答した。

■ アンケートを通じた意見収集

講義後、学生へのアンケートを実施し、扱ったテーマに対する意見や、講義の感想など収集した。(具体的な内容は次頁以降)

<意見交換の様子>



■ 令和6年度開催実績

令和6年度は31回(大学・大学院13回、高校18回)開催した。

【大学】

帝京大学(2回)
関西学院大学
相模女子大学
お茶の水女子大学
慶應義塾大学
名古屋大学
北海道大学・大学院
愛知学院大学
九州大学
南山大学
流通経済大学

【高校】

横浜女学院高等学校
都立農業高等学校
都立東久留米総合高等学校
都立目黒高等学校(12回)
帝京長岡高等学校
都立世田谷泉高等学校
都立蒲田高等学校

※令和6年7月時点。開催日程順。

(参考) 年金対話集会におけるアンケート結果について

ひと、くらし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

大学生向け年金対話集会について（アンケート結果①）

■ 令和6年度大学生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【年金制度全般について】

・年金に対する不安感とか破綻するのではないのかと思うことがあったのですが、改良に改良を重ねてやってきていること、今まで働いてきた人が年金に対して払ってきたから実現している事実があることが知れた。

・年金については正直今までほぼ詳しいことは知らなかったもので、今回お話を聞くまでは「真面目に納付していても将来は自分が払った額よりも減った状態で返ってくるのかな～」なんて漠然と考えていたのですが、実際は国庫負担や国の積立金も合わさって、元々払った額よりも高い額が給付されているということは新たに知りました。今までなんとなく抱いていた年金制度への不信感がだいぶ払拭された気がします。

・こうして内容に触れてみると知らなかったことばかりでしたが、同時に知らなくてはならないことばかりでもあり、これからの労働の必要性和意義が可視化され、私の中で義務感が生まれる貴重な機会となりました。健康に長生きし、何らかの方法で定年を過ぎても働くことができればと目標を持つこともできました。中学生の頃から不安定だと言われていた年金制度ですが、不安定なだけで対策がないわけではないということ、きちんと知識として理解することができてよかったです。ありがとうございました。

・年金制度は家族であることが重視されていると思った。ディスカッションの時間で質問できなかったが、専業主婦で働いている夫からDVを受けている人などは将来十分な年金がもらえない不安から離婚できないと考えるのではないかと疑問を持った。

・高給と呼ばれる仕事につくので、老後資金への不安はない。むしろ株式債券運用の専門性をもっており、年金として徴収されるくらいならその分自分で運用させて欲しい。

・資産運用によって国民の負担を減らしたり、年金の上限額を決めることで過度に若い世代から年金を徴収しないようにしているとのことでしたが、物価高やインフレの現代においてこれらの制度だけで事足りているのか疑問に思いました。

・そもそも年金に頼らず、自分で老後の生活費を貯金しておくという考えは誰もがするものですが、実際は退職してから何年生きるのかの予想ができなかったり、自分が働いている時と老後の物価の差等の問題があったりと、実質的な価値を保証し賃金や物価に連動して決められる年金制度の必要性は大きいと思いました。（中略）今後世の中がどう変化するか、自分の身に何が怒るのか予想ができないため、年金に頼り切るのではなく、長く働く、資産運用といったことも考えていきたいと思いました。

・年金制度はなくし、ある一定以上の年齢から最低限の生活費を全員に支給し、それ以上欲しい人は民間の年金を利用すればいいと考える。年金を取りやめてその分税率を上げるのであれば納得できる人も増えるのではないだろうか。また年金を受け取る要件を満たしていないため、国民年金に任意加入をし、納付しなければならない人が出てくる。現在、国民年金保険料が免除になっており、これからも納付する余裕がなくなり、任意加入でも所得基準を満たしていれば免除になるよう制度を改正していくべきである。

・なぜ社会保障費や国民負担を減らす方向には議論がいかないのか。高齢者にばかり資金配分が偏り、若者や企業は見捨てられている感覚がある。国は小さくなるのに、なぜ社会保障は守り抜こうとするのか。

・保険料は現役世代が支払い、その収入をもとに年金給付が行われますが、少子高齢化が進む現代においては、支える現役世代の負担が重くなるリスクがある。そこで、保険料に上限を設け、その不足分を積立金で補う仕組みが導入されているらしい。しかし、これらの仕組みには限界もあるのではないだろうか。マクロ経済スライドは、経済成長が停滞した場合には十分な効果を発揮できず、年金額の実質的な価値を保つことが難しくなる。また積立金の運用が期待通りにいかない場合、将来的な年金給付に影響を及ぼす可能性もあると考える。さらに、少子高齢化の進行によって、現役世代の負担が増大し、社会全体での負担感が高まることもありうる。

※原文ママ

大学生向け年金対話集会について（アンケート結果②）

■ 令和6年度大学生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【適用拡大について】

- ・年収の壁は、既婚女性が年収を「壁」より少なく抑えるために、労働時間を制限するよう促す意味をもち、実質的に、正社員として働く既婚女性を不利に扱うものでもあると思う。日本経済は女性の労働力を強く必要としていて、キャリアを確立したいという意欲をいなく女性も増えている現代、制度は見直されるべきだと思う。
- ・自営業で年金をもらうより、企業に勤めながら年金を貰う方が良いなと個人的に感じました。男女でどのくらい働く年数が長いのか変わる部分もあるので、この先の働き方についても改めて考えていきたいなと感じました。
- ・今後高齢者がさらに増えることがわかっている中、できるだけ適用範囲を広げられようとしていている試みは素晴らしいと感じた。今後、高齢者へのサポートはさらに拡充されていくのであろうと思ったが、出生率の向上、子育て支援などがないと現在日本が抱えている問題は全く解決されないと思う為、大変お忙しく、もちろん考えられていると思うがそちらの制度拡充にも尽力していただきたいと、今後子どもを持つ世代として思った。
- ・社会保険適用を拡大することについてのディスカッションで、「現在困っているから将来のことについて考える余裕がない人もいるだろう」という意見が出ましたが、まさに私がそれです。確かに受け取る年金は増えるかもしれないが、現在奨学金を借りながら大学に通っている身としては、手取りが減るということは結構な死活問題になると感じます。制度というものは色々な立場の人間がいるということを加味しなければならないため、決定するのも一苦労だと思う。みんながみんな苦労せずに暮らしていけるような世の中になればいいと思います。

・個人的には厚生年金の学生適用はありだと思っています。というのも、将来的に給付が増えることは良いと思いますし、それなりに需要もあると思うからです。ただ、長い目で見ると得かかもしれない制度も、今の生活に困っている人には厳しいことだと思うので、「今は手取りを最大化したい」という人、あるいは「手取りが少し減ってもいいから将来のために積み立てておきたい」という人、どちらにも寄り添えるように、強制的にするのではなく3階の私的年金のように任意にし、選択の余地があるといいのかなと思います。

・やはり、学生の段階から年金を回収するというのは、少し抵抗感があると思った。それこそ、東大の学費で大事になっているように、学生というのは勉強が本分でありながらも、金銭面の事情は多種多様である。就活をしているとかなり忙しく、お金がないという子も周りにいたので、そこは学生の経済状況をチェックした上で進めるべきだと思った。

・今年20歳になりますが、約月1.7万の年金は学生のうちは払うことが厳しいと思うので、今日教えてもらった学生納付特例を申請して、未納にならないようにしたいと思いました。

※原文ママ

大学生向け年金対話集会について（アンケート結果③）

■ 令和6年度大学生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【3号制度について】

・3割被保険者の話は、現在は裕福な家庭の主婦さんがというイメージもあり、そこを対象にと考えると納得できないというイメージも湧いてしまいましたが、減ってはいてもやはり働きたくても働けない人がいて、そのような人を確実に保障するとなった時に、3号被保険者の制度は重要だと思います。

・3号被保険者制度を全く廃止してしまうのには反対です。3号被保険者の中には、産休、育休中で、仕事がしたくてもできない人もいるとのことがありました。そのような人たちは、会社の制度次第で仕事に復帰できるから、年金を払わない期間は一時的なもので、その期間にまで年金を払わせるのは酷かなと感じました。出産補助金などを出して出産を後押ししている訳だから、子育て政策に逆らっているように思います。出産育児を支援するという目的で、一時的に年金を払わなくてよいという制度もいいのではと考えました。

・今私は仕事をしていないし、子どももいないので第3号被保険者制度を廃止してもいいといいと考える。しかし、実際に子供が産まれて働き方も変わると考え方が変わることも予測できる。その一方で、制度が先に変われば人々の生活も変わることも期待でき、学生の立場では第4号被保険者制度を廃止し、保険料を叱る人数から徴収し、年収の壁にとらわれることなく働き、それぞれが収入を得ることも必要だと考える。

・少子高齢化に伴って労働力が減少している現在、専業主婦など、働かない人材がいることは勿体ないことだと思う。やむを得ずに働けない人もいるかもしれないが、第3号被保険者制度を徐々に無くして、働く人を増やし、そういう人からもお金を集めるべきだと思う。

・第3号被保険者制度について、所得の低い共働き世帯から相対的に所得の高い片働き世帯への事実上の補助となっているという課題を感じました。また、片働き世帯の働いている側からしたら、自分の年金受給額は配偶者がいると相対的に下がることから、所得のない相手と結婚するメリットが少なく、この制度をきっかけに積極的に単身でいようとする人はいないのか疑問に思いました。

・第3号の存在意義がよく分かりません。「扶養される」側であることや、多くの時間を労働に割けないという点では専業主婦は学生とあまり変わらないのではないかと感じました。現在の第3号被保険者を全員第1号に組み込むというのは良くないのでしょうか。あるいは、第1号であっても就業調整の必要があるため、基礎年金の受給のために少額の負担を全員に課するというのはどうなのかと思いました。

・具体的な事情を知ってみると、確かに多くの第3号被保険者の方はたくさん働いた分から引かれて年金になるよりも、控えめに働いて何も払わずに年金を受けとる方が、心身の負担的にも魅力的に見えるのかなと思いました。現在のニーズを考えると第3号被保険者の枠は必要であると思いますが、人数は年々減ってきている上に、今後両性が平等に扱われる社会に徐々に変化してくることを考えると、自然と第3号被保険者制度はニーズがなくなってくるのではないかと思います。

・第3号が問題になっていることや遺族年金の問題は、昔の考え方に合うもので今の考えには合わないから問題なのだと思います。現在は、まだ私の両親の世代などは昔の考え方に合った働き方をしていますが、今後は夫婦共働きが当たり前になり、今ある問題が自然に消滅するのではないかと考えています。

大学生向け年金対話集会について（アンケート結果④）

■ 令和6年度大学生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【遺族年金について】

・遺族厚生年金について、男女間の格差がいまだに大きいことを知りました。晩婚化や共働き世帯の増加など、格差解消には様々な要素が関わると思いますが、次の改正、また次の改正と、格差是正がなされていくとよいと思いました。

・社会が変化する中で、本当に様々な問題が生じているのだなと思いました。年金制度にまで男女の不平等があるとは思っていなかったけれど、日本の社会でまだ男女が完全に平等ではない今、年金制度にどれだけ平等を反映するかは、とても難しい問題だと思いました。

・女性に対しての給付の多さはむしろ労働意欲を低下させているのではと思いました。個人的には、有期給付は男女ともに就労していなかった場合に適用し、無期給付は男女ともに65歳以上で十分であると感じました。一方で、4、50代で死別した場合、すでに高齢の方であったり、国家資格等を持っていなかったりする方は就職しづらいと思うので、（そもそもそのような状況を変えるべきですが）65歳になるまでの期間は遺族年金として給付するべきだと思います。

・遺族年金について男女の差をなくすとしたら、子どものいない配偶者が男女関係なく45歳や50歳くらいから支給にすればいいという意見が出ました。私が知識不足なだけかもしれませんが、子どもがいない配偶者の場合は結婚した時点で仕事を辞めていることは少ないと思うので男女とも5年の有期支給にするのも手かなと思いました。

・妻が亡くなった場合、受給できるのは55歳以上になってからという制度について、年齢について改正の際に引き下げるなりなんらかの改善をするべき。

・LGBTQやSDGsが騒がれている昨今において日本の年金制度および法律に関してやや古臭いところが残っているなと感じました。見直すべきところが今回の講義の内容意外にも沢山あるのではと思ってしまいました。

・男女差があることが不公平だなと思った。ジェンダーレスが認められていく中で男女の差があるということはおかしいと思いました。

・今の遺族年金制度は男女によって差があります。なので、男性側が遺族年金を受け取る際に配偶者が亡くなった際に55歳などと決まりをつけるのではなく年金を受け取る本人が普段の生活に戻れるまで年金が受け取れるような制度を男女平等に制定するべきだと私は考えました。

【基礎年金拠出期間45年化について】

・45年制度？には私は賛成だなと思いました。

・まだ働いておらず、仕事のしんどさはわからないので、45年制度になっても良いかと思います。

【在職老齢年金について】

・65歳～75歳へと勤務年齢が長くなる中で、（在職老齢年金廃止などで）長期で働くことが社会全体にとって本当に得があることなのか疑問に思う

※原文ママ

大学生向け年金対話集会について（アンケート結果⑤）

■ 令和6年度大学生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【私的年金等について】

- ・私的年金についてはあまり知らないことばかりでしたが、少額からできることや、様々なものを組み合わせると、リスクも少なく出来ると聞いて、とても良い印象を持つことができました。
- ・社会の風潮で、将来の年金が危ないような雰囲気があったが、今回の授業で実際はもっと安定しているということが分かりました。自分の将来のことだから、iDeCoも含めて、もとを考えていきたいと思いました。
- ・年金だけでは生活できないと感じたので、NISAやiDeCoで自分のための貯蓄をしたい
- ・若年層の将来についてよく考えた制度が様々あり、将来に対する安心感を感じました。
- ・iDeCoの手続きの簡易化と金融機関の営業担当や専門家が相談に乗ってくれる体制づくりをお願いします。

【年金財政全般について】

- ・マクロ経済スライドはよくできた仕組みだと思いました。
- ・年金制度は現代の社会では高齢者をサポートする仕組みになっているが、今後社会人になった時にさらに負担になるのではないかと不安にもなる。また、周りからよく聞く、年金なんてきつともらえないという声や額が減るという声も耳にすることがあり少し不安になるという気持ちもあったが、色々な施策を考えていて、私たちの世代にもしっかり年金が支払いされる設計になっていることが安心材料となった。
- ・物価に応じて毎年年金額の調整が行われることに関して、妥当な措置で、ちゃんと考えられているんだなと感じた。
- ・持続可能な年金制度を目指すうえで、マクロ経済スライドの発動要件を緩和したほうが良いと個人的には感じています。
- ・今後若者が減っても保険料納付額には上限があって、それに合わせて年金の給付額が決まっていたので、今後、自分たちの払う額が上がらないことは分かりました。ただ、物価が上がり切った状態や、社会的に厳しい状況になった場合など、相対的に見るとやはり生活費に対しての年金は減り、損をしてしまうのではないかと感じました。表などを見たところ積立金も徐々に減っているように思いましたし、そこは国庫負担だけで賄っていけるのだろうか、という疑問を抱きました。

高校生向け年金対話集会について（アンケート結果）

令和6年度上半期では、これまで実施してきた大学生向けの年金対話集会に加え、高校生向けの年金対話集会を実施（7校、約600名受講）。授業では、高校生が年金制度に興味を持ち、楽しく学ぶことができる新たな年金教育教材を活用し、年金制度に対する意見を聴取した。

■ 令和6年度高校生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【公的年金の意義】

- ・年金制度は人の思いやりでできたものなのかなと思った。
- ・年金制度は高齢者の方だけに対する制度ではないと分かった。
- ・色々な年金があり、私たちがいまこの瞬間にも使うかも知れないと思った。
- ・物価高のときの高齢者の方と安いときの高齢者の方でもらえる額が異なるため、市民の不平等感をなくすために、制度についてよく考えることが大事だと学んだ。
- ・年金はシンプルだけど奥深いような仕組みは知れば知るほどワクワクしました。年金は面白いことを知れて良かった。

【働き方・暮らし方と公的年金】

- ・公的年金シミュレーターが面白かった。（多数）
- ・年金のシミュレーションでどう働けばどのぐらいの額がもらえるか想像しやすくなった。
- ・年金受給を送らせた方が受給額も増えるため、体が元気にうち働いて少しでも多く年金を受け取りたい。

【公的年金の財政方式】

- ・親がよく「いまの若者が高齢者になる頃には年金なんてもらえないかもね」と言っていてなんとなく不安だったがマクロ経済スライドの仕組みを知って安心した。
- ・昔は積立方式をしていたが、賦課方式に変更された理由を考えられたことでより知識が深まった。
- ・将来の年金制度の変化について考えるのがすごく面白かった。厚生労働省が考える年金制度のすごさを改めて感じた。
- ・思った以上に国が長期的な視点でお金を貯めていたりしてうまく出来ているなと思った。

【年金不安】

- ・私たちは重い負担を負うだけで将来年金がもらえないなどと間違った情報で不安に思うことがあったので、正しい情報を知れて良かった。
- ・年金について不安を煽るような記事が多いけど制度を改善していけば安心できる。